

未来へつながる学びを支援する訪問 報告

国語 白岡市立南中学校

実施日 指導案検討 令和7年10月10日（金）
授業研究会 令和7年11月 4日（火）
訪問者 指導主事 赤塚 みゆき

指導案検討会

●単元名

いにしえの心にふれる一昔の名作は今もなお、名作といえるのかー
蓬莱の玉の枝ー「竹取物語」ーから
(第1学年)

●本時の目標

・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。

《思考力、判断力、表現力等》

《授業者の思い・意図》

・古典に苦手意識をもっている生徒にも、作品の魅力を捉えさせ、読み進めさせたい！
→教科書に掲載されている文章だけではなく、5人の貴公子それぞれの物語を通して、現代との共通点や相違点などから「竹取物語」は今でも名作と言えるかということについて考えさせる。

■ 参会者の声

・国語の専門ではないうえに、小学校の低・中学年の担任をすることが多いので不安でしたが、疑問を聞いていただき、考え方方が少しわかりました。とても勉強になりました。（指導案検討会：小学校教諭）

・古典の授業を見る機会もなかなかなく、他の先生方と話をする機会も少ないので、大変貴重な機会だと感じています。今後の自分の授業改善として何をしていけばよいか、明確になりました。

（授業研究会：中学校教諭）

授業デザイン改善のPOINT

■ 目標を達成するための言語活動

言語活動ありきではなく、目標が達成できる言語活動を設定すること

■ 言語活動の特徴や特性の確認

取り組ませる言語活動にはどのような特徴や特性があるか、教師が認識すること

■ 「考え方の形成」をすること

・考え方を形成するための「正確な理解」について
・どんな考え方をもたせるかのか明確にすること

■ 授業者の声

- （指導案検討）目的に合った言語活動になっているか、ということについて、特にたくさんの御意見や御提案をいただきました。また、考え方をもたせるための観点を示すことについても御意見があり、授業に取り入れることができました。
- （授業研究会）ペーパーサポートについては、「古典に親しむ」という点では適していましたと思いますが、「考え方の形成」には適していないことが分かりました。中学校に入って初めての古典であること、できるだけ興味をもたせたかったこと等から実態を考慮してこの手段をとりました。
- （今後に向けて）様々な方に御指導いただき、貴重な経験になりました。また、多くの方に支えていただいたので、この経験を今後に生かしていきたいです。

授業研究会

●生徒の変容や今後の課題

◎「竹取物語」と現代との共通点や相違点を考えることを通して、古典への親しみを感じ、作品を「おもしろい」と考える生徒が多くかった。

◎5人の貴公子を分担し、それぞれの内容についてペーパーサポートを用いてグループで伝え合った。そのため、自分の発表に責任をもって取り組めていた。

▲「古典に親しむ」活動と、「考え方を深める」活動を分けて行っていれば、より生徒の考え方を深められる授業展開になっていた。

